

研究課題名：

VEGF-A₁₆₅b 測定の有用性に関する検討に関する情報公開

1. 研究の対象

2015年07月16日～2020年07月15日に当院外来へ受診または入院され、採血後に生化学検査等の臨床検査を受けられた、もしくは受けられる方

2. 研究目的・方法

目的：我々の研究グループはこれまでに、抗血管新生因子 VEGF-A₁₆₅b に関する研究を行ってきました。これまでの研究成果で、末梢動脈閉塞性疾患 (PAD) 患者での、VEGF-A (血管新生能を増強するサイトカインの一つ) 血中濃度が健常人と比較して優位に上昇しているにもかかわらず、なぜ下肢組織虚血が改善されないかの矛盾点を VEGF-A の新たな抑制型アイソフォーム VEGF-A₁₆₅b が病因の一旦を担っていること、さらに、病的肥満症患者における微小血管障害に VEGF-A₁₆₅b が病因の一旦を担っていることについて明らかにしてきました。しかし、現在までに VEGF-A₁₆₅b を正確に評価できる臨床検査法が確立されていません。これらを明らかにするために、当院臨床検査部門で測定・結果報告が終了している残余検体を用いて、VEGF-A₁₆₅b 測定の有用性について検討します。本研究結果の詳細な解析を行うことで、VEGF-A₁₆₅b を起点とした臨床検査への応用が期待されます。

研究期間：2015年07月16日～2020年07月15日を予定しております。

方法：当院臨床検査部門で測定・結果報告が終了している残余検体を用いて、Human VEGF ELISA (R&D 社) と human VEGF-A₁₆₅b ELISA (MyBioSource 社) 等を用いて、Total VEGF 濃度と VEGF-A₁₆₅b 濃度等を測定します。測定後、下記の点において医療統計解析ソフトウェア Graph Pad Prism 6 を用いて解析を行います。

用手法での ELISA 法を用いた場合、下記の①、②に関して検討します。

①感度と特異性、②年齢、男女別臨床的有用性。

用手法での ELISA 法以外の測定法ができた場合、下記の③-⑧について検討します。

③直線性、④最小検出感度、⑤共存物質、⑥繰り返し性 (精度)、正確さ (真度)、⑦相関、⑧生物学的基準。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：性別、年齢、身体情報、臨床検査値、投薬歴等、既往歴、喫煙歴 等

試料：血液、尿

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学医学部附属病院 総務課 名古屋市昭和区鶴舞町 65. TEL:052-744-1901

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院 検査部 検査部長 松下正

名古屋市昭和区鶴舞町 65. TEL:052-744-2111(代表) 内線 2656